

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表：2023年2月28日

事業所名 放課後等デイサービス・児童発達支援FreeD

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		定員を厳守し部屋も十分なスペースを確保している。またパーティションなどで部屋を区切って使い分けもおこなっている。	
	2	職員の配置数は適切である	8		規定数以上のスタッフを配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		個々の特性に合わせた視覚提示ツールを使用している。また一部ではあるが手すりや足台なども設置している。	完全バリアフリー化にはできていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		定期的な消毒や換気をおこない活動ごとに部屋を使い分けたりパーティションなどで区切って使用している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	5	あらゆる分野でPDCAをおこなうようにしている。	非常勤職員も会議に参画できるようにしていきたい場合は伝達研修などしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		実現可能なことから改善に向けて検討なおこなっている。	現状実現が難しいことも多くあるのでどうすればできるかなども検討していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		ホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8		現状できていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		個々に興味がある研修やスキルアップのための内・外研修に積極的に参加している。	非常勤スタッフの社内研修をもっと増やしていく。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			より良いものに改善していく必要がある。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3		標準化されているかはわからないが大阪府のツール等を参考に作成し使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		支援計画作成ごとに周知してアプローチ方法などを検討している。	改善の余地があるため見直し精度を高めていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		常勤スタッフで話し合い意見を出し合っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		その時の季節に応じたものや工作・外遊び・室内活動など様々なプログラムや内容を考えている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		支援計画には記載していないこともあるが必ず個別・集団どちらの活動も目標を立て支援にあっている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		毎朝ミーティングをおこない決まった役割などは全スタッフ共有できるように視覚化している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		気付いたことなどがあればすぐ共有しその場で共有できなかったスタッフに対してはLINEなどのツールを利用して周知をしたり翌日のミーティングでも共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		担当したスタッフが記録に残し他のスタッフに周知するとともに必要があればそれをもとにアプローチ方法の改善などに繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			
関係機関や	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		サービス管理責任者は必ず参加し全体の支援を把握している支援リーダーも可能な限り参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		区の子育て支援室などと密に情報共有をおこなうようにしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		2		該当する利用者がいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		2		該当する利用者がいない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		保護者の同意を得た上で契約後又は移行時に情報共有をおこなっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		保護者の同意を得た上で入学前および進級前に情報共有をおこなっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	保護者の同意を得た上で電話での情報共有及びケース会議(問題解決のため・保護者からの依頼があった時)を実施している。	専門機関から助言などは受けていないが研修には参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8		現状できていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子どもの子育て会議等へ積極的に参加している	7	1		地域の事業所連絡会には毎月参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時・電話・LINEなどいろいろなツールを利用して情報共有や共通理解をはかっている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	3	ペアレントトレーニングという名目ではなく提案という形でサポートさせていただいている。	一部の方にしかおこなえていないのでたくさんの方に参加してもらえるように努めていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		6か月に1回の面談時や送迎・個別の連絡などでおこなっている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8		現状できていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		何かあればいつでもご対応させていただけるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		活動はブログにて発信しており行事やお知らせなどは手紙にて配布させていただいている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		利用者に合わせた方法で意思疎通を図っている。(視覚支援など。)	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8			現状できていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	避難訓練を定期的におこなうためにプログラムに入れ込んでいる。	避難訓練はおこなっているが保護者用の緊急時マニュアルを作成しブログかホームページで発信していきたいと思っている。また避難する行動が完全に定着していないので回数を増やしていく必要があると考えている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		避難訓練を定期的におこなうためにプログラムに入れ込んでいる。	避難する行動が完全に定着していないので回数を増やしていく必要があると考えている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		契約時に確認し定期的な服薬や新たな服薬がある場合は情報共有していただけるようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	3		該当する利用者がいない。もし該当される場合は医師の指示書に基づく対応をさせていただく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		その日中にヒヤリハットを作成し翌日の朝ミーティングで情報共有や改善策などを話し合って全スタッフに周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		毎年1回は社内研修を実施している。	外部研修へも参加していきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		重要事項説明書に記載しており契約時に説明している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。